

「ごめんね。幼虫」


「ママ・・・」

おいしいちゃんからもらった かぶと虫が 卵を産みました。そして、次々にふ化した幼虫で飼育箱がいっぱいになりました。



わあ! かぶと虫 いっぱい!

子どもたちが楽しみにしている おやつ時間。



おいしい?

じくんは、庭のすみっこに、スコップで穴を掘って、かぶと虫の好きな腐葉土をたっぷり入れました。そして、幼虫たちを広い場所に 移し替えてやりました。




幼虫たち。新しいお家だよ。ここならいっぱいおるべからね。

大好きな 乳酸飲料を ロにした1歳児のKちゃん。ふと、容器の絵をじーっと見つめました。



ところが、その日の夜に、大雨が降ったのです。



ザー!

しばらくするとKちゃんは、容器のキャラクターの絵を指さし、うれしそうにつぶやきました。



??...

次の日の朝。水びたしになった穴の中で、助かった幼虫は、一匹もいませんでした。



幼虫たち... ごめんね。ごめんね。

お迎えの時間。



まあ!

このキャラクターの絵を見て「ママ」って言っておられたんですよ。

かぶと虫を見ると、大人になった今でもあの日の出来事を思い出します。大切に育てていたかぶと虫が、幼い頃のじくんに命の尊さを教えてくれました。乳幼児期のさまざまな気持ちを受けとめたり共感したりしながら豊かな感性が育まれるよう援助していきたいと思っています。

言葉が出始めたKちゃんのつぶやきに思わず笑顔になったおかあさん。「おかあさんのこと大好き!」と思っている気持ちかKちゃんのたったひとこと、おかあさんに伝わり、その場がハッピーな雰囲気になりました。こうしたやりとりを大切にしながら保育を進めていきたいと思っています。